

開講にあたって

このたび『創る』と題した一冊の本を世に送り出すことになりました。これは四年前に上田女子短期大学公開講座の名前で出版いたしました『生きる』の続編であります。

『創る』という書名は、先の『生きる』と同様、本学が長野県教育委員会の委託を受けて、平成六年・七年の二年間にわたって県民カルチャー「上田女子短期大学開放講座」の名称で行なった公開講座の統一テーマをそのまま使用したものです。なお執筆順は、公開講座の発表順になっていきます。

ところで「創る」という言葉で私がすぐ思い出すことは、人間は始めから出来あがっているものではなく、自分で自らを創りあげていくものである、とよくいわれることであります。別の言い方をしますと、人間が何かの物を産みだすときには、まずその物の用途とかそのものの本質とかを考えてから、それにしたがってなされるわけですが、私たち人間は、私が何者であるかという本質が決るより先に、この世に生まれて来てしまっているというわけです。このことについて、フランスの実存哲学者であり文学者でもあるサルトルの有名な言葉があります。それは「実存は本質に先立つ」というものです。サルトルは、人間というものは自分の生きる意味（本質）を自分で創りながら、いわば自分でシナリオを創りながら生きていく（実存する）ものであるといっています。

このことを真剣に考えてみますと、非常に困難なものであります。生涯学習の必要性もそこに根本はあ
るのだといつてもいいすぎではないと思います。

その困難なことに勇敢に立ち向かうために、少しでも本書が読者の皆様方のお役に立てばと願っていま
す。

平成八年七月

公開講座委員長

松田幸子